

# 原発危機の経済学

—社会が原発を受け入れる条件とは？—

一橋大学大学院経済学研究科教授

齊 さい

藤 とう

誠 まこと

- \*対象への実在感、リアリティが大事
- \*技術の新陳代謝を怠ってきたツケ
- \*原発技術と社会の受け止め方
- \*核分裂の制御がしやすい軽水炉発電
- \*公的規制と経営的判断の責任
- \*81年規制以前の原発がある現実
- \*なぜ古い技術の炉が残ったか
- \*東電も住民も事故を想定せず
- \*廃棄物は人が管理できる地上施設で
- \*格納容器の破損に至った責任は重い



浅野 開会いたします。（拍手）今日は「石橋

湛山賞」受賞記念講演です。33回目の今年は、一橋大学の齊藤誠先生が『原発危機の経済学』で受賞されて、先ほど授賞式が行われました。

石橋湛山記念財団の石橋省三理事長から挨拶がありまして、まずいつものように数字で話を始められたんですね。まず1ですが、33回目にして初めて一橋大学の先生が受賞されたことです。1回目ですね。不思議なことに今までお一人もおられなかった。これで今後、一橋大学内で齊藤先生に対して尊敬の念が高まるのではないかと期待します。（笑）

次に2ですが、この本の出版元が日本評論社で版元としての石橋湛山賞は2回目です。私も学生時代、そして東洋経済に入って以降も『経

済セミナー』や『経済評論』を熱心に読んでいたので、人ごとながら喜ばしく感じています。日本評論社の最初の受賞本は一昨年、若田部昌澄先生の『危機の経済政策』でした。「危機」が多いですね。（笑）

それから3は、受賞者が表彰式に奥様をお連れになったのは三人目だということ。（笑）田中直毅さんと、去年の牧野邦昭さんが奥様をお連れになりましたが、今日、齊藤さんも表彰式には奥様とご一緒に、記念講演もそちらのお席でお聞きになります。（拍手）

このようなことであたいへんおめでたいわけですが、ただ、私としてはこれまで大震災の問題は何度も取り上げてきましたけれど、原発の問題についてはちょっと引いていたのです。なぜ